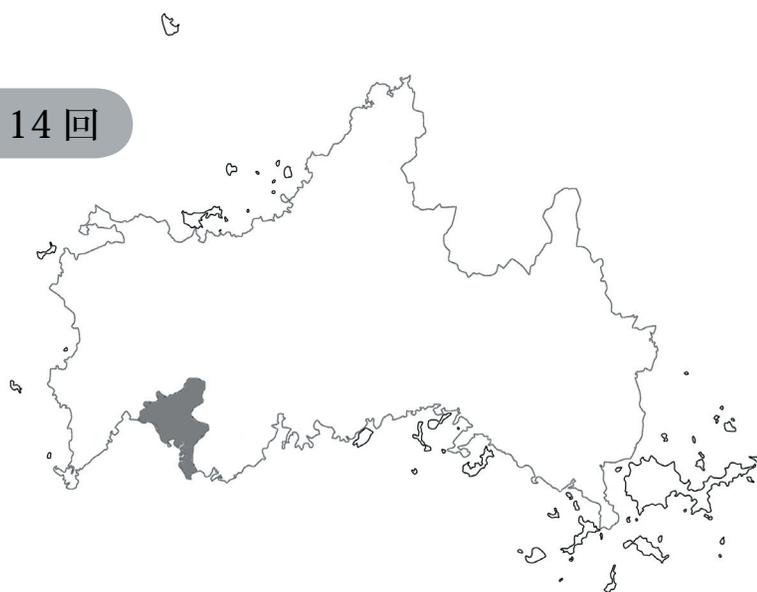


郡市医師会めぐり 第 14 回

小野田医師会



まず、最初に山陽小野田市のご紹介をいたします。山陽小野田市は平成 17 年 3 月 22 日、小野田市と厚狭郡山陽町が合併して誕生しました。市名は一般公募の結果、合併前の旧市町名を並べたものとなり、すべてが漢字による 5 文字の市名は現在日本で唯一とのことです。人口は平成 25 年 10 月 1 日現在 63,250 人。日本の夕陽百選に選ばれた焼野海岸・竜王山や、ツツジで有名な江汐公園など自然豊かなところ です。

小野田医師会は昭和 15 年 12 月、小野田町と高千帆町の合併・市制施行により小野田市が誕生した際、厚狭郡医師会から分離独立する形で小野田市医師会として発足しました。発足時の会員数は 24 名(昭和 16 年の山口県医師会名簿より)、医療機関としては 19 の病・医院があったと聞いています。平成の大合併により山陽小野田市と

なりましたが、小野田『市』医師会の名称は変更せず、平成 24 年 4 月に社団法人から一般社団法人となった際に小野田『市』医師会から『市』をはずし現在の小野田医師会と改称しました。平成 25 年 11 月現在の会員数は 96 名、所属医療機関は公的病院 3、個人病院 3、診療所 37 の計 43 施設となっています。

現在の西村会長で 9 代目となりますが、現在 7 つの重点目標を掲げ医師会活動を行っています。

- ① 医師会組織の充実、勤務医会員の入会促進
- ② 医療機関の連携のさらなる充実
- ③ 医療・介護・福祉のシームレスな連携の構築
- ④ 生涯学習の推進
- ⑤ 市民に開かれた医師会づくり
- ⑥ 女性医師の働きやすい環境設備
- ⑦ 会員相互の親睦と連携強化

②③④に関しまして、当医師会内には消化器病研究会、胸部疾患研究会、糖尿病研究会といった専門部会があり、また年 3～4 回の学術講演会、毎年 7 月には会員研修会を開催しています。会員研修会は以前は医師会員のみの発表でしたが、最近では公的 3 病院の看護部門やコメディカルの演題も組み込み、医療・介護・福祉のシームレスな連携の構築を目指しています。



小野田医師会館

⑤に関しまして、以前にも不定期に市民公開講座を行っていましたが、平成 25 年 5 月からは定期的（年 6 回）に、市民を対象にした「健康ミニ講座」を開催しています。また、毎年 11 月に開催される健康フェスタにも医師会員がボランティアで参加しています。

⑥に関しましては、平成 23 年に県内 8 番目となる女性医師の会が当医師会の女性医師と厚狭郡医師会の女性医師とで設立されました。また、平成 26 年の山陽小野田市民病院の新築に合わせて 24 時間保育所が設立予定で、勤務女性医師も利用できるよう医師会として市に要請しています。

⑦に関しましては、納涼会、医師会旅行、忘年会等で診療所、公的病院勤務医、臨床研修医との交流が盛んに行われています。また、ゴルフは OMGC と呼ばれ、315 回を数えています。囲碁部も強く、県医師会の大会で常に上位に入賞していると聞いています。

医師会の地域住民に対する責務として救急医療がありますが、当医師会では各医療機関での輪番制による日曜当番医制度を昭和 46 年から実施（正式開始は昭和 47 年）、さらには出務型として山陽小野田市急患診療所で祝休日に小児救急を、平成 22 年からは平日夜間（19 時～22 時 30 分）に内科救急診療を行っています。それぞれで診療し入院が必要な場合には速やかに公的 3 病院が対応するといったシステムが確立しています。このような地域救急医療体制の確立、公的病院との連携の強化などが評価され、平成 25 年 9 月に救急医療功労者として厚生労働大臣表彰を受けることとなりました。また、病気や障害をもった人が住み慣れた地域やご家庭でその人らしく療養生活を送れるよう、市の委託を受け平成 10 年 10 月に小野田市医師会訪問看護ステーション（現・小野田医師会訪問看護ステーション）が設立されました。平成 25 年 11 月現在、管理者 1 名、常勤 5 名、パート職員 3 名で稼働しています。

最後に公的 3 病院についてご紹介させていただきます。設立順に小野田赤十字病院、山陽小野田市民病院、山口労災病院です。各病院の勤務医のほとんどが当医師会に入会されており、病 - 診



厚生労働大臣表彰

連携・病 - 病連携も非常にうまくいっています。

小野田赤十字病院は昭和 7 年 1 月に日本赤十字社山口県支部臨海療養院として開院、昭和 21 年 1 月に現在の名称に改称されています。平成 7 年に老人保健施設あんじゅを併設、平成 25 年 11 月からは当医師会の診療所と協力して、強化型在宅療養支援診療所・病院の中心としての活動が開始されています。

山陽小野田市民病院は昭和 25 年に設立されました。当初、山口県炭坑福利協会の総合病院として建設されていましたが、昭和 24 年の協会解散により完成したばかりの病院を市が譲り受けた形となり当時としては先駆的な『市立』病院が誕生したそうです。昭和 37 年に改築、昭和 56 年に増築。現在老朽化のため新病院の建設が行われており、平成 26 年 10 月に新病院へ完全移行の予定です。その際には前述のごとく 24 時間保育所の併設が予定されています。

山口労災病院は昭和 30 年に開院。計画の際には医師会ともいろいろあったと聞いていますが、現在では救急告示病院、災害拠点病院、地域医療支援病院、NST 稼働認定施設等の認定を受け、当地区の救急医療の中核となっています。希望診療所との登録医制度を設け、登録医師と常勤医との共同診療を行う開放病床も備えています。また、平成 26 年 4 月からは宇部・山陽小野田・美祢圏域を対象とした地域医療連携情報システムの情報公開（カルテ開示）病院の一つとして稼働することが決まっています。

【小野田医師会広報担当理事 渡邊 悦也】